

# 『エクアドル現地報告会』 鉱山開発にNO!! ～南米エクアドル・インタグ地方～ いのちの森と守り手たちを訪ねて



4月23日(土) PM6:00～

参加費: ¥1000 (インタグコーヒー付き) 場所: 堺町画廊 連絡先: granma0726@brown.plala.or.jp (一井)

内容: インタグ地方現状報告 / 一井リツ子さん(「インタグの鉱山開発を考える」実行委員会)  
: 子どもの権利を守るための市民の闘いー閉校になった学校の再開と子どもの栄養不足問題に取り組むー  
杉田優子さん(エクアドルの子どものための友人の会・代表理事)

\*エクアドルの子どものための友の会(SANE)は、エクアドルの子どもたちを、教育を通して支援するNGO(国際協力市民団体)です。  
現地での活動は、現地NGOのSOJAE(ソハエ)とパートナーシップを組んで、地域の住民と協力しておこなっています。

主催: 「インタグの鉱山開発を考える」実行委員会

豊かな生物多様性の土地エクアドル・インタグ地方での鉱山開発問題について情報を広め、現地を応援しています。  
「インタグSOSキャンペーン」を開催、開発問題についてのイベントを継続中

協賛: 堺町画廊



京都市中京区堺町通御池下る東側

TEL:075-213-3636 <http://sakaimachi-garow.com/>



## 『INTAG / 環境文化・鉱山開発問題』

エクアドル北部・インタグ地方は、アンデス山脈の裾野に位置しこの地を育む「雲霧林」という森林は世界の熱帯雨林の中でも2.5%という希少な生態系であり、さらに地球上に存在する35か所の環境ホットスポットの2つを有する世界でも類まれなる生物多様性を有する土地です。この地方はチョコ・マナビ生命地域(コロンビアからエクアドルにかけての保全地域「緑の回廊」)に属し、国が制定するコタカチ・カバヤス生態系保護区にも隣接しています。

2000年、インタグ地方コタカチ郡では「環境保全条例」を発令し「環境保全郡」を宣言。キチュア系先住民族も多く、豊かな生態系と独自の伝統文化を守る様々な取組みにより、持続可能な社会づくりを目指しています。(2000年にアラブ首長国連邦から国際ドバイ賞、2002年UNESCOから平和都市賞を受賞しています。開発予定地であるインタグにおいても開発に頼らない生活の糧として有機的農牧業、森林農法によるコーヒーやサイザル麻を使った手工芸品のフェアトレード、エコツーリズムなどを始め、自然に負荷をかけない持続可能なオルタナティブな産業を作り出しています。

しかし1990年代日本のJICA/三菱マテリアルがここで試掘を行い、現在まで続く重金属の混入などによる河川の汚染を引き起こしました。その後も度重なる鉱山開発の危機を住民たちは、「環境保全団体DECOIN/インタグの生態系の防御と保全」を中心に必死の抵抗運動により、なんとかこの地を守ってきました。しかし現在ではエクアドル(ENAMI)とチリ(CODELCO/世界最大級の銅企業)という2つの国営企業が、合弁事業として強引に鉱山開発を推し進めようとしています。

多大な環境破壊を引き起こす鉱山開発に反対するハビエル・ラミレスさん(開発予定地フニン村村長)は「反逆罪・テロリズム」という罪状をでっちあげられ、10か月間不当逮捕拘留されました。フニン村では200～300人規模の警察隊らによる強行突入が行われるなど、住民への圧力が強まっています。